優秀賞

キッチンの中は大さわぎ

蒲郡市立蒲郡東部小学校　2年　島田（しまだ）　妃望（きの）

「もう、やめてよ。こっち来ないで。」
毎日毎日、同じようなことを言っているわたし。わたしは、すえっ子。四人きょうだいで、お兄ちゃんが三人いる。
わたしが、ソファーにすわっていると、すぐよこから来て、ブスとか、デブとか言ってきて、ほんとうにいや。だから、すぐに、
「やめて。」
と大きな声でさけんでしまう。そうすると、お母さんが、
「うるさいよ。」
と、わたしにちゅういする。
わたしのお母さんは、しごとから帰ってくると、そうじやせんたく、ごはん作りに大いそがし。お母さんが帰って来たら、聞いてほしいことも、見てほしいこともたくさんあるから、ついつい、
「ママ見て。」
「聞いてて。」
とか言ってしまう。お母さんは、うん、はいはい、とかへんじだけ。ほんとうにわかっているのかな、聞いているのかな、とふあんになることがよくある。
お母さんは、りょうりがすきで、キッチンに立っている時間が多い。家ぞくみんなのしょくじを作ってくれて、かんしゃしている。
わたしの家ぞくは、お父さん、お母さん、兄ちゃんとわたしだから、六人分のごはんをつくるのは、とてもたいへんそう。
お母さんは、まず
「何作ろうか。」
からはじまる。いそがしそうに作るお母さんのキッチンから
「うぁー」
と、いつでも大きな声が聞こえる。
「ちょっとお。」
と、お母さんがわたしたちをよんでくる。わたしたちのことをうるさいと言うお母さんが、りょうりのさい中はとてもうるさいと思った。ちょっとむししてしまった。また、何かやったんだなとおどろかない。今日は、たまごやき作ろうとれいぞうこの中からたまごをおとしてしまったらしい。まえは、ガシャンと聞こえたときは、わたしのお気に入りのお茶わんをおとした。どうして?と、おこりたくなったこともある。お母さんは、
「早くやろうとしちゃだめだわ。ちょっとおうちゃくしたりすると。」
と、少しかなしそうに言った。
わたしが手つだおうとすると、お母さんは、「いそいでいるからいいよ。またおねがいね。」と言う。わたしが手つだうと、時間がかかるみたい。
お母さんのキッチンは、いつでも大さわぎ。わたしは、はやく大きくなって、お母さんのためにおりょうりをつくってあげたい。お母さんのやくに立つ年になりたいな。お母さんそれまでまっててね。